

千手ヶ原ミズナラ・ハルニレ希少個体群保護林 希少-30

管轄森林管理局・署	関東森林管理局 日光森林管理署
所在地	栃木県 日光市
面積	98.95ha
設定年	1987(S62)年
保護林の概要 (設定目的)	西ノ湖と中禅寺湖の間の氾濫原に成立している湿潤立地性の天然林で(当該地域の谷型の天然林)、奥日光地帯の代表的樹種であるミズナラ及び、奥日光地域でも少なくなってきたハルニレが群生している。このため、当該地域の湿潤立地において土地的極相林として成立している、ミズナラ、ハルニレが群生し、ドロノキ、ヤチダモが混在する群落の希少な個体群を保護するために設定する。



モニタリング調査概要

実施年度	2007年、2012年、2017年、2022年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、ドロノキ、ヤチダモ、ミズナラ、ハルニレが生育する林分計4箇所のプロットの樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	森林調査について、シカ防護柵内に設置されているプロット以外のプロットについては、継続的にシカによる食害の影響が見られ、林床には忌避植物であるシロヨメナが繁茂している状況であった。 保護対象種及び次世代を担う保護対象種の稚樹や実生の生育状況については、保護対象種の大径木については概ね健全に生育していたが、次世代を担う稚樹や実生についてはシカ柵内のプロット内で僅かに確認できた程度であった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。